

==== 目次 =====

- P1 専任幹事のページ
「観察グループの思い」
- P2 10周年に向けて
「自然と文化科の一考察」
- P3 特集記事
「エコの生活」
4班「グリーンカーテン」
- P4 3班「クロアチア旅行」
2班「初めまして」
- P5 リレー随筆「不信と不安と期待」
ムシ眼鏡《新企画》
- P6—P7 私の玉手箱
1班「スタンドグラス」
「絵画との出会い」
工作同好会の活動《8月抜粋》
- P8 俳句サロン
絵画コーナー

「観察グループの思い」

観察グループ 遊上 眞一

自然観察には、2つの楽しみ方があるようです。1つは、同じ場所で定期的に植物の生きて行く姿や変化を観察する方法。自然と文化科では、箕面と武田尾で年3回ずつ観察会をしています。もう1つは、花や芽吹き・紅葉などを、お目当ての植物の一番の見頃に鑑賞する方法。4月に五月山の桜(雨天中止で残念でした)や6月の六甲山でタンナサワフタギなどです。

観察グループでは定期的な観察が基本だと考え、箕面公開観察会では、科員全員がリーダーを務められるように学習して、講座生を案内し、好評を得ています。また武田尾では冬芽の観察会に高等科生を招待し、一緒に観察しながら、科の活動内容をアピールして入科へと誘導しています。

しかし定期的な観察をするのに年3回では間が空きすぎて、変化してゆく様子を捉えるのはなかなか難しいことです。でも一方では3回も同じ所へ行くのか、と云う声もあり悩ましいところです。

そこで私は最も手近な自宅周辺を定期観察しようと考へて、1周約5kmのコースを選定して樹木のリストアップを始めました。住宅地ですが、結構緑が豊かで現在250種を超える樹木を同定しました。シナノキ・マンサク・ゴモジュ・ハマボウ・ヒツバタゴ・トウシキミ・ベニバナトチノキなど珍しいものも見つかりました。ここを週1回は観察したいと思っていますが、用事が多いからか今はなかなか出来ません。だけどこれが習慣となれば、楽しみながらレベルアップが図れるかと期待しています。



7月 南アルプスの北沢峠(H2000m)で、カエデの葉にトチノキに似た花をつけた高木を発見。

高山に自生し、上向きの花軸に花をつける 変わったカエデ オガラバナ(麻幹花)でした。

◇また来年、ふるさとの森へ

夏ツバキの枝で時折耳を立て薄目を開けるお父さん。その下枝でウトウトするふかふか灰色ボールの雛。アカショウビンもブッポウソウもさしおいて今年のスターは赤色コノハズク。ヒマラヤを越えてくる鶴、海を渡る蝶、そろそろ渡りの季節。彼らも南へ旅立ちました。来年もこの森で安心して子育てをしてくれます様みんなで見守りたいものです。



自然と文化科の一考察

九津見 明 前代表

私は平成17年4月に創立2年目の自然と文化科に入科した。それまでの科員数は15名、私達が加わって29名になった。やっと1つの研究科として体裁が整ったときで、私は自然と文化科の新入科員ではあったが、高等科在籍中にNPOの幹部から、“平成17年4月からの「地球環境生態系講座(現:自然学講座)」を開講する”との大きな命題を与えられていた。その前年までは、NPOで「地球環境大学講座」という年間10回の講座が運営されていたが、それに代わる新しい講座であった。

自然と文化科での初年度は“地環”の運営に邁進したため、活動等についての記憶が薄い。“地環”のお世話に関しては自然と文化科は勿論、当時高等科在籍中の仲間などから多くの協力を得た。この講座は何とか軌道に乗り、お世話には3年間で区切りをつけさせてもらった。

その間に、自然と文化科の人数は着実に増加し平成20年4月には69名を数えた。3年間で2.4倍の急成長で、研究部の中での1番の大所帯になっていた。私はこの年、自然と文化科の顧問を委嘱され、しかし、人数の急膨張に組織の実態が旨く伴わなく、科の運営は代表と関係者の苦労と心労に掛っていた。全体会議のような機会も少なかったように記憶している。その年に私が仲間と手掛けたのが規約の作成であった。

平成21年度～22年度、私は代表に指名され、すでに科員数は80名に到達していた。私が強調した基本方針は、「常に自然と文化についての研鑽に励み、社会に役立つシニアであることを目指す」であった、その方針のもと、「全ての活動が“参加して楽しい活動”であるよう科員全員が心がけ、積極的に運営に参加する」という意識で科の舵取りを担当した。

色々と問題もあったが、科員の皆さんの協力の賜物として、次のような成果が表れていると思う。

- ・幹事諸氏の意識と、科員の連帯意識の一層の向上
- ・分割活動の軌道化
- ・班別会議、グループ会議の普遍化
- ・広報活動の充実による情報の共有化
- ・総務グループの機能発揮 等など

これらの成果の陰には最近の新入科員諸氏の目覚ましい活躍があることは、皆さんが認めるところであろう。

しかしながら、今後の自然と文化科の在り方に目を移すと、安閑とはしておれないと思う。すぐにでも念頭に浮かぶ課題には以下のような事象がある。

・科員資格の制限の件

高等科への加入は講座部修了者に限るように、自然と文化科は高等科修了者のみに門戸を開き続けるのか？ この方針はいつまで続けられるだろうか？ 講座部の意向聴取も一法か。

・更なる増員に対する対策 科員数が百名超への事前対策

科員増加のペースは緩やかにはなるだろうが、退科者が少ない限り増員は続くと思われる。科員増加時の活動の抜本的なシミュレーションが急務ではないだろうか？

・科員間の更なる親睦推進策

各人の班以外のメンバーとの親睦が未だ不十分だと思う。現状でも可とする見解もあるだろうが、活動内容を振り返り、親睦推進により有効なプログラムや運営方法は不可欠だと思う。

折角の投稿の機会であったが、問題提起のみに終わってしまった。再来年度は、自然と文化科創立10年目である。この年を契機に上記の諸問題を含めた革新を目指すのは如何なものか。

エコの生活

4班 齊藤 ちづみ

もう5年位前の話ですが、公開講座での話であったと記憶しています。環境問題で大学の先生が講義された中で、ご自身のご家庭で太陽光発電を取り入れておられている話が印象的でした。環境問題に付いて特別に気に留めていなかった私はそれに反応しました。

偶々、家の建て替えでチャンス到来。私もソーラーシステムを取り入れる事を夫に願い入れました。経済事情を把握する夫は一笑して「一生かかっても元とれへんで」。



しかし現在は快適？な生活をしています。エコを導入。(ソーラー発電、オール電化、エコ給湯) 寒がりです暑がりにとって

光熱費が高んでいましたが、現在は以前の約 1/7 位です。約3.1キロのパネルを搭載して4年間で只今(8/24 15時現在)発電積算は11,724kwh 電気自動車ですら走行距離は152,412kmです。CO2削減量は2,110kg/c 石油消費削減量は2,848こんな数字を楽しんでいます。因みに22/5~23/4の年間光熱費は23,504円です。

8月の電気料金の支払い5,711円、売電料金は190kwh で9,120円、今月は3,409円の儲けです。この調子でいけば何とかトントンで終われるのではないかとニンマリなのですが、今の売電料金はソーラー設置を増やす為の補助金導入の暫定措置です。設置当時は年間で現在の3倍は支払っていました。にも関わらず目先の事しか見えない私は単純に光熱費を合計した金額より安かったのが喜んでいました。初期投資と月々の売電料金にはマジックがありますが環境問題では確実に数字で表されています。

エコという言葉をよく耳にします。エコロジー(生態学 環境問題対策)エコノミー(経済)の略で和製英語だそうです。私はエコノミーでエコロジーな生活を望んでいます。

何となくの感覚人間が共通講座で聞いたソーラー発電を取り入れた事が環境問題の CO2 削減に役立ったり、今問題になっている原子力発電の事故により発電量の減少を発電プラス節電で協力出来たりして微力ながら環境汚染の減少に貢献する事になりました。

グリーンカーテン

4班 森 隆子

我が家でゴーヤを植えて4年目、1年目はみごとに失敗。肥料もやらず小さなプランターが主な原因。

二年目からは、土作りから始まってネットを張ったり、親づるの芯止め・夜中のヨトムシ退治等、ちょっと手をかけはじめると少しずつグリーンカーテンらしくなってきた。強い植物、でも連作はダメなどゴーヤのことも勉強、その経験がものを言って今年も大きく育ちました。

涼しいばかりではなく、食物としても優秀。身体にこもった熱を冷やし、夏バテ防止、ビタミンCも豊富。免疫機能を高め疲労回復・食欲増進・血糖値を安定させる等、効能いろいろ一石二鳥です。8月8日現在収穫は6本、遅く植えた為、花はまだ少し、これからか。楽しみ！



今年は特に東北大震災・原発事故といろいろ考えさせられました。生きていることの幸せを実感させられ感謝の一言です。“簡単・便利・早く”はちょっと横におき“不自由を楽しもう”“ていねいな生活をしよう！”とちょっと反省しているところです。電化製品に頼りすぎないようにしようと思いつつ、待機電力を使う製品はコンセントから抜くとかは気をつけているがなかなか実践は難しい。食事をしっかりとって元気で外に出かける・観察に出かける・シニアに通う、これが一番の節電かな～パソコンもやめた～い！

急がず寄り道を楽しみながら手足、頭、体を使って“ゆっくりゆこう！”自然の力を信じ、自然の恵みに感謝しつつ、元気に生きたいと思います。



クロアチア旅行

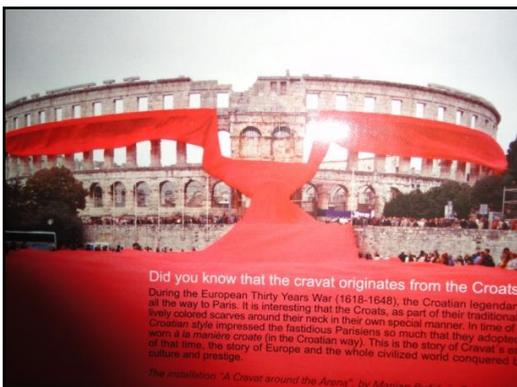
3班 牧野 能子

フォークダンスでバルカン半島の曲がしばしばあり
どんな国なのか見てみたいと思っていましたが、ツア
ーではなかなか無いと思っていたところ、クロアチア行
きができ、スロヴェニア経由でクロアチアに入りました。
我々はユーゴスラビアになじみがあるが、クロアチア
共和国になってまだ20年しか経っていません。

クロアチアはアドリア海に点在する半島を含め、ダ
ルマチア地方といいます。海岸沿いは石灰岩で、樹
木は低木だけで草木も僅かにあるだけでした。動物も
殆ど見る事がなく、昆虫も見あたりませんでした。不
思議に思い、この国の自給率を聞きますと85%と非
常に高いのです。後で分かったのですが、中間地方
が緑豊かで農村地帯で放牧もあり、納得しました。

海岸沿いを南に行くと、石で出来ている聖ヤコブ大
聖堂があり、71人の人面像が彫られています。スプリ
ットのディオクレティアヌス宮殿は古代ローマ遺跡で、
地下倉庫があり柱は大理石でできています。スプリット
からもう少し南にドブロブニクがあり、旧市街には大聖
堂フランシスコ会修道院、ドミニコ会修道があり、北東
にはスルジ山、旧市街の周りには要塞があり、1周す
るのに1時間30分位かかります(1950m)。ここから
北西に向かい、プリトヴィツェ湖群国立公園に入ります。
湖のなんと美しいエメラルド色でしょう。歩道も
完備され、湖は無数の滝から成り、観光客、親子連れ
、ハイカーなどが喜々として1日遊べる所です。

その後首都ザグレブに到着。ギリシャ文字の母体の
キリル文字がグラゴル文字と並んで17世紀頃まで使
われ、スラブ圏の中でカトリックの影響の強い地域で
す。アドリア海に突き出したイストラ半島に入りました。
円形劇場は2万3千人入れるそうです。ローマ時代1
世紀の建立です。当時、人間(奴隷)対飢えたライオン
の戦いが見世物でした。ネクタイの発祥地でも有名
で、円形にネクタイを巻いてギネスに登録されたそう
です。



初めまして

2班 松平吉生

俳句は人に読まれ何かを感じてもらってこそ作品に
なるのだと思います。今回、自然と文化科の皆さんに
ぜひ読んでいただきたく、自作の好きな俳句30句を
選び「初めまして」と題をつけました。共感して下さる
句が1句でも2句でもあれば幸いです。

天守をば下宿にしたる初夢や
光琳の梅に強情ありにけり
涅槃図にみみずの兄弟急ぎをり
初めまして千年桜の洞覗く
正面にわれに手を振る桜かな
水底やさざれにうつる花の影
花びらに僅かなくぼみ風さらふ
曲水や十二単が傘さして
花蛇にくすぐつたがる黄色かな
観潮船あはちを回し阿波回し
みちんこの独り踊りやみどりさす
ハンカチの木の花姉の欲しくなり
代掻きや伊吹を離るる雲一片
暗闇が一山となるほととぎす
夏うぐいす下山の人は微笑せり
忽然と風入れかはる瀧の前
おおうおおうおおうわああうあ花火
白玉や母にもらひし泣き黒子
菌類と人類睦むきのこ山
あきつ飛んで空の悦ぶ八ヶ岳
ポプラの葉秋のそよぎとなりけり
海賊の血を引く妻と螢狩
秋雲を掃きをり風の榛の木は
山霧の声なき速さ大斜面
山背負ってぬすびとはぎの天下かな
日のあたる所へわれも草の花
太陽の塔のくちびる初時雨
サリエリに肩入れしたる寒さかな
火事らしき蕾がひらきかけてをり
忘年や舟の形のピザ食べて

最後まで読んで下さりありがとうございます。よろし
ければ一緒に俳句で遊びませんか。俳句サロンにてコ
ーヒーなど用意してお待ちしています。

「不信と不安と期待」

石橋 修作

東日本大震災から既に5か月が経過し、あと4か月で正月が巡ってくるが復旧・復興は遅々として進まず、被災者はいまだ不自由な避難所や仮設住宅での生活である。放射能汚染地域の住民は帰宅も許されず、当該地域周辺の農産物や家畜等に対する移動や出荷停止が続いている。

国会中継にみる「政治駆け引きゲーム」にはうんざりさせられ、日本国中に「不信と不安のあらし」が渦巻いている。政治不信、放射能不安、電力不安、経済不安、地球環境に対する不安、外交に対する不安、異常な円高、株安等々、かつて経験したことのない事象に不信の念が強まるばかりである。

不信(Distrust)とは信義を守らない事、偽りの有る事である。震災を機に行政能力の乏しさと危機対応力のなさがあらわになり、どうしようもない。全国の出発は点検を機に、順次停止・廃棄し、再生可能エネルギー等の代替エネルギーの補填での対応を目指すという。展望のない脱原発発言にエネルギー問題が長期化する可能性を懸念した産業界は、政府のエネルギー政策次第で国内生産を見限り、海外に生産拠点を移し始める企業が出はじめ、産業の空洞化が懸念される。

当面の電力エネルギーは何で賄うのか。中長期的には何を主力エネルギーとするのか、コストと安全性・安定性からどのような電源を構成するのか、再生可能エネルギーの技術開発も国家レベルで急ぐべきである。政府は情緒的に反原発感情を掻き立てながら、自分の責任を回避し「だから原発は悪い」という方向に向かっていく様に見えるが、展望のない脱原発は国家の衰退につながる。

われわれ、企業OB諸氏も、東日本大震災(3月11日)以降の憂慮する多くの報道に失望の毎日である。近日中に発足する新政権の具体的な政策に期待し、「ごまめの歯ざり」には終わらせたくない。

ムシ眼鏡

「6.24 六甲山観察会(場所は秘す)にて」

4班 吉野久司



調べてみると「ウツギノヒメハナバチ」のようだ。朝来市の楽音寺が大群生地として有名で、兵庫県指定の天然記念物にもなっている。こんなところで観察出来るとは！

観察道ではウツギの花も沢山咲いていた。
(アサギマダラも吸蜜中)

ステンドグラス

1班 中川 真由美

出会いは2年前、たまたま見つけた教室で作り始めたのがきっかけです。まだまだ思うような作品には成りませんが、たくさんの工程を経て出来上がるのは、楽しいものです。作品が出来るまでの行程を簡単にまとめてみました。

コーパーテープフォイルディング方式(ティファニー方式)

アメリカのティファニーが19世紀に考案しました。

工程1 デザイン画を描く

工程2 原寸に伸ばし型紙をカットする。

工程3 型紙に合わせて、ガラスをカットする。

工程4 銅箔のテープ(コーパーテープ)をガラスの側面に沿って巻く。

コーパーテープ:テープの裏が接着仕様になっていて、ガラスにつき

ます。太さもガラスの厚みに合わせて数種類あり、裏面の色も銅色、ブラック、シルバーがある。

工程5 テープが剥がれないように、ヘラでしごく

工程6 フラックスを塗り、並べたガラスにハンダ付けをした後、組み立てる。

テープを巻いたガラスを型紙の上に並べていく、型紙とガラスに番号を書いておき間違えない様に組み合わせる。

フラックスは、融剤で金属表面の酸化物質を除去しハンダをしやすくし、金属同志を繋ぎ合わせる役割をする。ハンダとは鉛と錫の合金。割合によって硬さも変わり使い分ける。最近は環境に配慮した鉛フリーハンダもある。

工程7 部品や座金を組み立てた本体とハンダ付けをする。

工程8 洗浄後、パティナーで腐食する。

パティナーで、ハンダの部分黒くする。塗残しがないように気をつける。作品のイメージに合わせて、ブラック、銅、アンティークと数種類ある。

工程9 ワックスを塗り、磨いて完成。

ハンダ部分にワックスを丁寧にぬり、ブラシで汚れなどをきれいに取り除き布で磨いて完成。

※ステンドグラス: 存するもっとも古いものは、9世紀頃のものとしてされています。ステンドグラス

は中世ヨーロッパで教会と共に普及していきました。日本人の手によるステンドグラス制作の歴史は、明治時代からです。



つたない私の作品の一部です。



「絵画との出会い」

山下 勝弘

セカンドライフの過ごし方？ 考えも纏まらないまま退職して、「何もしないで過ごす」恐怖感から大阪府老人大学講座の中から消去法で美術科に入学をした。そして、初めての絵画を1年学び、波長が合った仲間がいたからか、絵を描くことが相に合っていたのか、同窓生で立ち上げたクラブ「彩希会・さいきかい」で、中2年程中断、年間作品数も2点程度で出展にやっとであるが、今年で継続6年目になる。

作品作りのモチベーションは低いにもかかわらず、継続できているのは、クラブの名前「彩希会」は私が提案して、皆が賛同して決まったことが大きいのかも知れない。クラブの仲間には、明かしていないが、ちょうど、クラブ設立の前に、ニューヨークで生まれた孫の名前「彩希子・さきこ」から取って「何時までも鮮やかな色彩で希望を描きたい！！」と命名した。

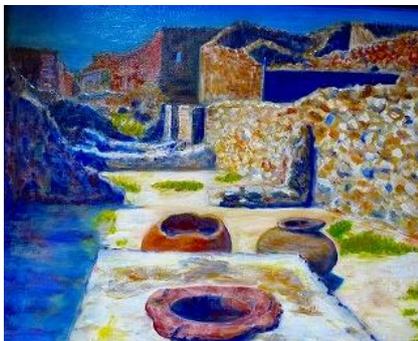
絵画の基本は風景であれ、ものであれ、よく観察をして、遠くのもの、近くのものを描き分ける幾何学的な遠近法に空気遠近法を加えて描く。また、ものの成立ちをよく観察をして、そのものの特徴を取らえる。例えば、バラの花弁は「こ」の字を中心から外側に少しずつずらしてラセンに描き、バラの小葉の枚数を間違えなければ多少形が変形していようとバラらしく見える。これは植物観察にも通ずる。しかし、ものが見えていない、観ていないと反省するのが常である。ものの質感をピューな感性で表現、訴えたいテーマを無心に丁寧に描くことが上達のポイントだそうである。「上手く描きたい」の思いが強いと下品な絵となり、何の感動も与えないと教えられた。

今年3月に豊中市立市民ギャラリーで開催した「第5回彩希会展」に出展した作品をご笑覧下さい。作品は真夏のポンペイ遺跡の居酒屋跡ともう一つの作品はフランスの美しい中世建築・城塞の村「スミュール・アン・オーソワ」の油彩です。

もっと、もっと、自然、風景を切り取って無心に描き続けられればと思っている。

第5回 彩希会展
 平成23年
3月22日(火)～3月27日(日)
 AM10:00～PM6:00 (最終日はPM5:00)
会場：豊中市立市民ギャラリー
 阪急豊中駅南側高架下1階 (06-6846-8621)
 (豊中駅南1番出口→梅田方面→高架下1階左側)
 彩希会は旧大阪府老人大学(現大阪府高齢者大学校)美術科北塚講座27期(★)生で結成した絵画クラブです。
 このたび、第5回作品展を開催させていただきます。
 何卒ご高覧くださいますようお願い申し上げます。
 彩希会一同

私共は2000日に感謝いたします。				
3/22(火)	3/23(水)	3/24(木)	3/25(金)	3/26(土)



ポンペイ遺跡(イタリア)F8 スミュール・アン・オーソワ
(フランス)F10

工作同好会の活動(8月活動からの抜粋)

◆8月の工作テーマ：餌をついばむ鶏



俳句サロン

松平 吉生

コンチキチン稚児のひとりがあくびかな
見渡せば三川合流ねぢれ花
アベックの白き素足よ水無瀬川
黒揚羽死んでゆくことよく忘れ
はじめての鮎屋料理を蟬しぐれ
見送りをせぬ子のこころ夏休み
ひとむらの秋草見ゆる白磁かな

山上 恵子

祇園祭

見る人も鉦曳く人も玉の汗
鉦の音を力に祭りの辻回し
レンズをば覗くあわひに鉦は去り

谷坂 修二

若つばめ隊をただして埒(ねぐら)入る
埒入り大葦原がツバメ吸ふ
食べごろをカラスよく知る赤トマト
やかましい蟬何匹や朝寝坊
小谷城跡にて
雨上がり穂孕み(ほぼらみ)甘く匂ひけり
蝸(ヒグラシ)が静かに聞こゆ自刃の碑

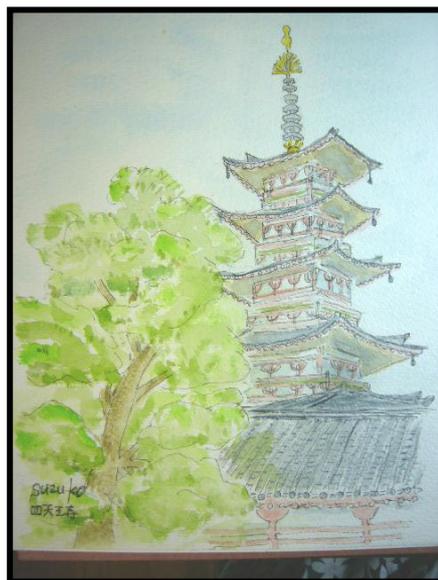
絵画 コーナー



ストックホルム(スウェーデン)の一風景

後藤 鏡吾

自然と文化科のメンバー中心の北欧旅行の一コマ。水彩画は今春から始めました。



花組同窓会

畑 寿々子

2009年秋、15期花1の花甲会が出来たての会の頃、四天王寺雨天決行。皆さんは小雨の中で傘をさして別方向から、私は雨宿りしたかったので、五重の塔のすぐ横の食堂屋さんの窓越しに、良いアングルがあり屋内から一気に描き上げました。

イワタバコ

Y. N.



この夏、高等科9期のメンバーに誘われた和泉葛城山の蕎原で咲いていたものです。和名の由来は、葉が煙草に似ていることから。草丈は10~15センチ程度。常に細かい水がかかるような湿気のある場所に群生しています。

自然と文化だより

世界中あちこちで異常気象が報じられ、日本でも世界遺産の地での、台風12号の被害の大きさの報道に胸を痛められます。10号記念号では「エコ生活」を特集しました。皆様のご協力により発行出来ました。次号をお楽しみに！(広報)